

研究主題

# 特別支援学校における図画工作科・美術科の授業づくりに関する研究

－文化芸術活動の充実に向けて－

【研究担当者】福田 要 阿部 真弓  
【この研究に対する問い合わせ先】  
TEL 0198-27-2821 FAX 0198-27-3562  
E-mail [sien-r@center.iwate-ed.jp](mailto:sien-r@center.iwate-ed.jp)

## I 研究構想

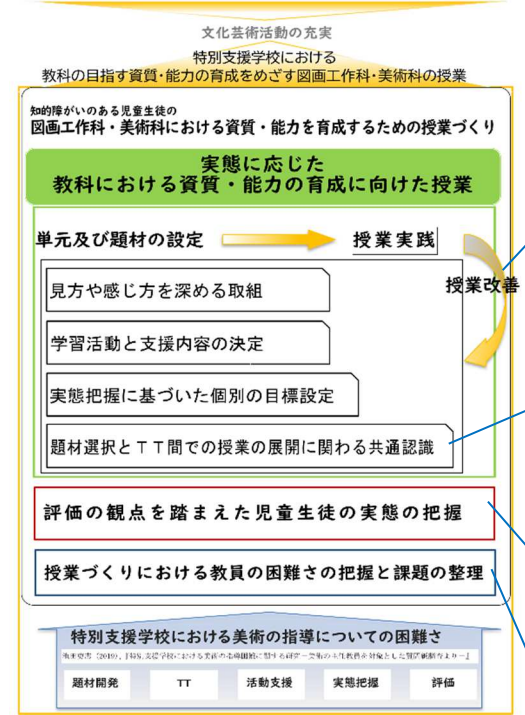
文化芸術振興基本法では、「文化芸術を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であること」が明記されています。また、文化芸術推進基本計画でも、価値に気付くことができる機会の確保や日常的に参画できるような環境作りの必要性が示されています。岩手県においても、「豊かな歴史や文化を受け継いで県民誰もが文化芸術に親しみ創造できる魅力あふれる岩手」を基本目標として、障がい者による文化芸術活動の総合的推進を軸とする方向が示され、「障がい者文化芸術の創作活動に安心して取り組むことができる環境づくりの推進」など、障がい者による創造性あふれる創作活動への支援が重点取組事項の一つに位置付けられています。



学習指導要領では、芸術系教科等において、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指すことが重視され、育成を目指す資質・能力が三つの柱に基づいて構造的に示されました。

知的障がいを対象とした特別支援学校においても、小学校、中学校及び高等学校の各教科等の目標や内容等との連続性や関連性が整理され、育成を目指す資質・能力を明確にするために段階ごとの目標が新設されました。そのため各教科等を合わせた指導とともに学ぶ意味の明確化や学びの連続性を踏まえた教科別の指導の充実も求められています。

そこで本研究は、美術の側面からの文化芸術活動の充実に向けた取組の一つとして、知的障がいのある児童生徒の図画工作科・美術科における、資質・能力の育成に向けた授業づくりの一例を示すこととしました。



手立て 実態に応じた教科における資質・能力の育成に向けた授業  
授業実践と授業改善  
ツール：「PDCAシート」（岩手県立総合教育センター2020）

手立て 実態に応じた教科における資質・能力の育成に向けた授業  
単元及び題材の設定  
題材選択とTT間での授業の展開に関わる共通認識  
ツール：小学校、中学校、高等学校の教科書  
「図画工作科題材構想シート」（岩手県立総合教育センター2021）

手立て 評価の観点を踏まえた児童生徒の実態把握  
授業づくりにおける教員の困難さの把握と課題の整理  
ツール：「評価の観点を踏まえた実態調査」

手立て 授業づくりにおける教員の困難さの把握と課題の整理  
ツール：「授業づくりにおける困難さに関する調査」

【研究構想図】

## III 研究のまとめ

授業づくり際に、教員の困難さを踏まえ、評価の観点を基にして児童生徒の実態を把握しました。その後、学びの連続性を踏まえた題材を選択し、授業の展開に関わる認識を教員間で共有して、授業実践とその改善を行うことで、図画工作科・美術科における資質・能力を育成するための授業づくりの一例を示すことができました。

そして、それぞれの授業実践を踏まえ、児童生徒が学んだことを生かし「日常的に文化芸術活動に慣れ親しみ、参画できるような環境」を設定しました。

小学部では、児童が、日常的に作品に触れることができるような鑑賞の場において、自分の作品に愛着をもち、じっくりと眺めたり、触ったりしている姿が見られました。



高等部では、文化芸術活動に関わる地域資源の活用状況やニーズの調査を実施し、調査から得た情報を基に、生徒が生活や社会の中の芸術や文化芸術活動を自分にとって身近な活動として関連付けて捉える一助として、文化芸術活動地域資源活用リーフレット（北上・花巻版）を作成しました。

## IV おわりに

図画工作科・美術科における資質・能力の育成に向けた授業づくりを通して、これまで漠然とみているだけでは気付かなかった、身の回りの形や色彩などの特徴に気付いたり、よさや美しさなどを感じ取ったりする児童生徒の姿が見られました。見方や感じ方を深める取組が、美術や美術文化を自分にとって身近なものとして捉えるきっかけとなり、ひいては、美術の側面からの文化芸術活動の充実につながっていくものと期待します。

本授業づくりを通して、主担当教員の「題材開発」に関する困難さが減少していることが明らかとなりました。一方、個別対応または支援に当たる職員の「支援」に対する困難さが増加しており、これは従前の作品づくりや設定された課題を解決するための支援から、資質・能力を育成するための支援へと個々の児童生徒にとって必要な支援を再考しているためと推察しました。「評価の観点を踏まえた実態調査」の活用評価の観点を基に、多様な実態の児童生徒に対して、それぞれの段階を踏まえた目標を設定し、そのための手立てを検討していくことが必要となるものと考えます。

○本研究の報告書は、下記の岩手県立総合教育センターのWebページに掲載しております。

<https://www1.iwate-ed.jp/04kenkyu/210sien.html>



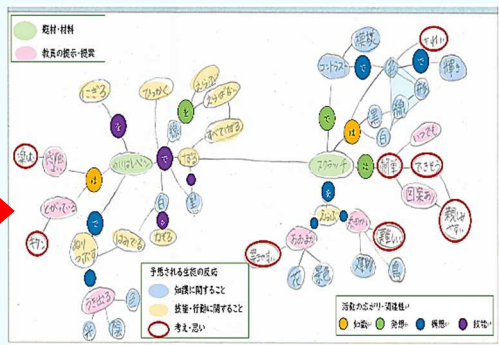
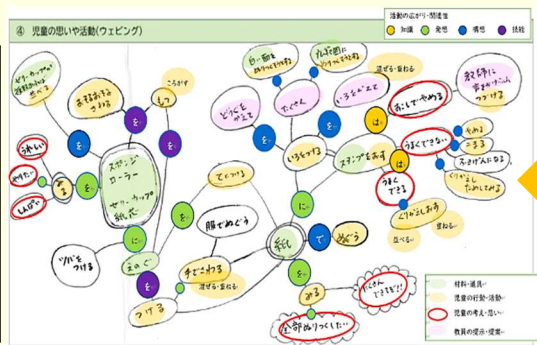
授業実践1 小学部 図画工作科 『ぺったんコロコロ／うつしたかたちから』

授業実践2 高等部 美術科 『生活をいろいろ文様』

**題材選択** つくりだすことの楽しさに気付き進んで学習活動に取り組むことができるよう、造形遊びをする活動を通して**造形的な視点に気付き**、「自分の感覚と行為と一体であるようなイメージ」をもち、絵に表す活動を通して**表したいことを表現できるように**、**題材を関連させて単元として構成**しました。

**題材選択** 自然や身近なものから発想を広げ、自らが強く表したいことを心の中に思い描き、表したい表現世界をどのようにしたいかを考えて、**構想を練ることを目的とし**、**自然物や日用品から発想を広げて構想を練ったり**、**作品から生活との関わりを感じ取ったり**することができるような**題材を選択**しました。

**図画工作科題材構想シートの活用**  
**教員の提示・提案**  
 材料や用具についての種類、量、大きさなどの提示を工夫することで、児童の造形活動を引き出すことができるのではないかと。  
**行動の発展**  
 見る活動が、「やりたい」という意欲や「全部ぬりつくしたい」という造形的な活動に発展する可能性があるのではないかと。



**ウェビング部分の活用**  
**材料・用具**  
 生徒は、既習学習を通して、線をなぞったり、削ったりする活動に、「できそう」という思いをもっているのではないかと。  
**行動の発展**  
 生徒は、削ることで浮かび上がる線や形、色のつながりなどから、模様や色、明度の違いなどに気付くことができるのではないかと。

評価の観点を踏まえた実態調査から、担当する教員が一人の児童においても観点ごとに段階が異なることや、ほぼ全ての児童に対して、個別対応を含む全ての支援が必要であると感じていることが分かりました。

小学部と同様に一人の生徒においても観点ごとに段階が異なると感じていることが分かりました。また、様々な段階にある生徒により構成されていることも明らかとなりました。

**実態把握・目標設定**  
 児童の知識及び技能の実態に個人差が見られることを踏まえ、本単元においては「思考力、判断力、表現力等」を目標設定の中心に考えました。思考・判断・表現（1段階）知識（2段階）、技能（1段階）、主体的に学習に取り組む態度（1段階）を目標設定の目安としました。  
 また、一人一人の児童の前題材における興味や関心、特徴及び困難さ等を加味して、個別の目標の段階を調整しました。

**【評価の観点を踏まえた実態調査】**

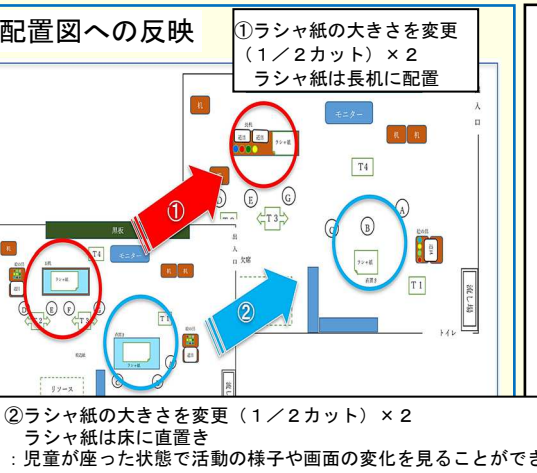
観点	質問
知識	1 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などについて気付いている。
	2 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いについて気付いている。
	3 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付いている。
	4 形や色、材料や光などの特徴について知っている。
	5 形や色、材料や光などの特徴について理解している。
	6 形や色、材料や光などの働きを理解している。
主体的に学習に取り組む態度	7 身の回りの自然物などに触れながら、切る、ぬる、はるなどを行っている。
	8 身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくらしている。
技能	9 様々な材料や用具を使い、工夫して色々な作品をつくらしている。
	10 材料や用具の扱いに慣れ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を使いこなしている。
	11 材料や用具の扱い方を身に付け、表したいことに合わせて、材料や用具の特性を生かしている。
	12 材料や用具の特性を生かしながら、意図に応じて表現方法を工夫して表している。
	13 材料や用具の特性を生かしながら、意図に応じて表現方法を追求し、自分らしさを発揮して表している。

観点	質問	段階	実態	実態内容
思考・判断・表現	14 形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、材料などから、表したいことを思い付いている。	1	○	○
	15 形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付いている。	2	○	○
	16 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、材料や、感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことから表したいことを思い付いている。	3	○	○
	17 造形的な特徴などからイメージをもちながら、経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をしている。	1	○	○
	18 造形的な特徴などからイメージを捉えながら、経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をしている。	2	○	○
	19 造形的な特徴などから全体のイメージを捉えながら、対象や事象を見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたいことなど目的や条件などを基に主観を生み出し、構成を創造し工夫し、心豊かに表現する特徴を捉えている。	1	○	○
	20 造形的な特徴などから全体のイメージを捉えながら、対象や事象を深く見つけ感じ取ったことや考えたこと、伝えたいことなど目的や条件などを基に主観を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	2	○	○
	21 つくりだすことの楽しさに気付き進んで学習活動に取り組もうとしている。	1	○	○
	22 (※形や色などに関わることで) 身の回りの自然物などに触れながら、切る、ぬる、はるなどを行っている。	2	○	○
	23 つくりだす喜びを感じ、進んで学習活動に取り組もうとしている。	3	○	○
	24 (※形や色などに関わることで) 身の回りの自然物などに触れながら、切る、ぬる、はるなどを行っている。	1	○	○
	25 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく、経験したことや思ったことや材料などを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。	2	○	○
	26 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に、経験したことや思ったことや材料などを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。	3	○	○
27 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に、経験したことや思ったことや材料などを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。	1	○	○	

補助資料2 pp. 4-5 参照

実践2においても「思考力、判断力、表現力等」を目標設定の中心に考えることしました。評価の観点を踏まえた実態調査結果と併せ、前題材における生徒の様子から「描きたいイメージをもち」表現ができていないことを踏まえ、思考・判断・表現（中学部1段階）として、知識・技能（中学部1段階）、主体的に学習に取り組む態度（高等部1段階）を目標設定の目安としました。  
 個別の目標設定に際しては、一人一人の生徒の特徴及び困難さ等を加味して、どのようにしてイメージを精選しているのか、担当教員と情報共有し、段階を調整しました。

**PDCAシートの活用**  
 <一部抜粋>  
**内容：**材料や用具の配置  
**評価：**児童によっては、しゃがむ動作に時間がかかり活動の流れが途切れる。用具を選ぶ・形を写す動作がスムーズに行えるよう動線を整えたほうがよい。  
**改善：**児童の集中力の持続性に定じ、小グループ毎にラシャ紙の大きさを調整する。また、姿勢の保持や運動・動作に関わる困難さに配慮し、作業台（長机）を用いて用具を操作しやすいように高さを調整することで、造形活動を思いきり楽しむことができるようにする。



**【PDCAシート】** (岩手県立総合教育センター2020)

**展開案への反映**

評価【思・判・表】表現の活動において、作品の全体に注目し、表現の活動における特徴的な表現などを基に見立てたり、心豊かや感情などに関連付ける。（問いに対する発言・観察）

4 作品鑑賞（10分）  
 ・今日の学習について振り返る。

5 まとめ（10分）

○モニターディスプレイを用いて、制作の様子について紹介する  
 ☆（研究担当）作品について、表現された形や色について  
 制作時に確認した生徒の思いを踏まえて作品を紹介する。

○言葉や今日の活動についての振り返りを行い、知識や経験の定着を促す。  
 ○板本・習字・花巻と地味を組み合わせながら、主だった文化芸術の形を提示する。

**PDCAシートの活用**  
 <一部抜粋>  
**内容：**作品鑑賞  
**評価：**発言の場が設定されておらず、生徒の作品に対する思いを聞き出せていない。生徒の発言を引き出すには、イメージを言語化する準備が不足している。  
**改善：**教員が、制作時に各制作会場を巡回し、生徒から作品に対する思いを聞き出しておく。講評の時間を設け、作品ごとに主題や工夫について紹介する。お互いに見方や感じ方、考えなどを共有することで、新しい見方に気付いたり、価値を生み出したりすることができるように配慮する。